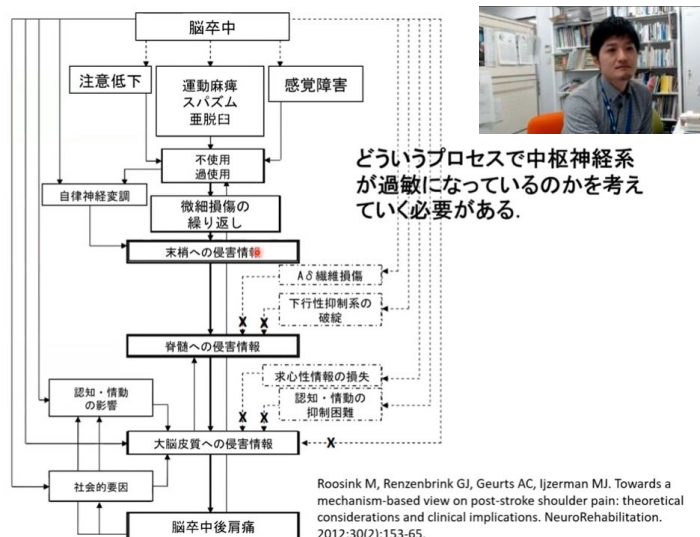
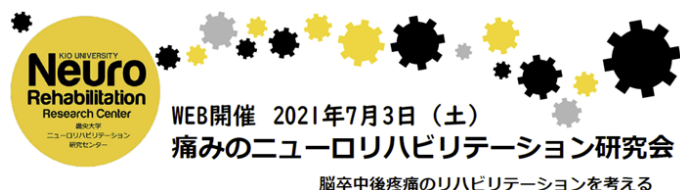


8. 1. 第1回 痛みのニューロリハビリテーション研究会 WEB 開催

2021年7月3日にWEB上で「第1回 痛みのニューロリハビリテーション研究会」を開催しました。テーマは「脳卒中後疼痛」であり、大鶴直史 先生（新潟医療福祉大学）、長坂和明 先生（新潟医療福祉大学）、壹岐伸弥 先生（川口脳神経外科リハビリクリニック）、古賀優之 先生（協和会病院）、大住倫弘 先生（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）にそれぞれトークをしてもらいました。



当日のプログラム

「リハビリテーションにおける問題点の共有」

畿央大学 大住倫弘

「ヒトが痛みを経験する脳メカニズム」

新潟医療福祉大学 大鶴直史

「中枢性脳卒中後疼痛の病態メカニズム」

新潟医療福祉大学 長坂和明

「中枢性脳卒中後疼痛のリハビリテーション実践」

川口脳神経外科リハビリクリニック 壹岐伸弥

「脳卒中後に生じる肩痛の病態メカニズムと

リハビリテーション実践」

協和会病院リハビリテーション科 古賀優之

大鶴先生からは痛みの脳科学についての基本的なことから最新知見までを紹介して頂き、長坂先生からはご自身の研究を中心にトークしてもらいました。特に、長坂先生のトークでは、視床が損傷した後に脳がどのように再組織化していくのかについて詳細に解説して頂き、これが参加者の興味の中心だったようで、多くの質問が集まり、ディスカッションが非常に盛り上がったように思います。その後に、壹岐先生から中枢性脳卒中後疼痛の事例を紹介して頂き、その評価・分析を皆でディスカッションして、今後力を入れて取り組まなければならないことが見えたように思います。最後に、古賀先生から、脳卒中後に生じる肩痛についての疫学・病態メカニズム・リハビリテーションの実際についてトークしてもらいました。肩装具によって肩痛が改善しなかった症例を深めていく手続きについては、非常に有意義なディスカッションができました。

8. 2. 第1回 発達科学と小児リハビリテーション研究会

2021年12月11日にWEB上で「第1回 発達科学と小児リハビリテーション研究会」を開催しました。儀間裕貴先生（東京都立大学）、浅野大喜先生（日本バプテスト病院）、信迫悟志先生（畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）にそれぞれトークをしてもらいました。

当日のプログラム

「自発運動とジェネラルムーブメント

ー 発達との関連 ー

東京都立大学 儀間裕貴

「脳性麻痺リハビリテーションの昔と今」

日本バプテスト病院 浅野大喜

「発達障害に併存する運動障害について」

畿央大学 信迫悟志



儀間裕貴(東京都立大学)

□ 自発運動とジェネラルムーブメント
ー 発達との関連 ー



浅野大喜(日本バプテスト病院)

□ 脳性麻痺リハビリテーションの昔と今
ー なにを変えなければならないのか ー



信迫悟志(畿央大学)

□ 会を始めるにあたり
ー 小児リハビリテーションにおける問題点の共有 ー

□ 発達障害に併存する運動障害について

儀間先生には、胎児期から始まる自発運動や感覚運動経験がヒトの発達過程にどのような役割を持つのかについてトークして頂きました。浅野先生には、「我々は、なにを残し、なにを変えていかなければならないのか」というテーマで情報提供をして頂きました。信迫先生には、小児リハビリテーションにおける問題点の共有と、発達障害に併存する運動障害についてトークして頂きました。それぞれのトークが終了した後に、質疑応答の時間を設けましたが、非常に多くの質問が飛び交っていて、参加された方々の熱心さが伝わってきました。